



広重版画より 三島 朝霧

第2362回例会

2023.8.24晴

司会

前田房江君

ロタリーソング

「ROTARY」
指揮 小塚英樹君

会長挨拶

副会長 鈴木正二君

日本の会社は夏休みを旧盆の近くで一斉に、或は交代でとることが多いと思います。私のこの期間を振り返ってみました。11日(金、山の日)連休の始まり、次男家族が帰省。彼は酒を飲まない。12日(土)週末は飲みに出るルーチンを守る。13日白滝公園の川床でせせらぎコンサートがあり、台風の影響で途中からTMOホールに移動したが楽しめた。14日(月)会社に行ったら配車係が1人だけ半日だけで夏休みになっていた。私は一日いて新聞を整理した。15日午後ダンス教室に2時間行き、夕方沼津の先輩の新盆だったので6人で自宅に伺いお線香を上げ、そのまま予約してあった和食処へ行って故人を偲びながら食事と懇親を深めた。その後4人は三島の行きつけでカラオケを楽しんだ。16日三島大社例祭と直会、一旦家に帰り汗を流して、15時からプラザホテルで日大三島高等学校のプラスバンド演奏を聞き町へ、頼朝公旗揚げ行列が中止とかの噂を聞きながら大通りで待っていると愛嬌いっぱい「あばれる君」を先頭に行列が通った。その直後大雨。そのままお祭りで早く開けた行きつけへ行き痛飲、早めに帰った。17日三島大社崇敬会大祭と直会。午後は娘の義母の見舞。大社の2日間の行事はテントがありミストシャワーもあったが礼服のためとにかく暑く熱中症気味。18日午前中は会社に出て、夕方から大学校友会沼津地域支部総会を主催、4年ぶりの対面総会だったので中締後も話が盛り上がっていた。三島へ動いて行きつけで一杯。19日(土)一日グダグダして夕方行きつけでカラオケ。いろいろあり、よく飲んだ夏休みでした。

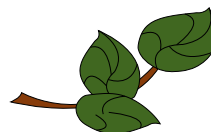
“こんにちは、ようこそ”

ゲスト ヴィティゴックチンさん(米山奨学生)
堀内満喜子君(カウンセラー・三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メモックアップ	修出席率
前々回	40/48	83.33%	43/48	89.58%
今回	41/49	83.67%	会員総数	54名

欠席者 芦川君、岩崎君、栗原(達)君、杉崎君、
諏訪部(照)君、千葉君、西川君、横溝君



幹事報告

幹事 赤池克斗君

- ①本日の例会は米山奨学生の卓話です。
- ②次回例会は9月7日(木)12:30呉竹 クラブ広報委員長の卓話です。

奨学生として得た事と今後の目標

米山奨学生 ヴィ ティ ゴック チンさん

初めまして、ロータリー米山記念奨学生のヴィ ティ ゴック チンと申します。三島ロータリークラブに所属しています。本日は三島西ロータリー様にお招きいただき、また、卓話の機会を与えてくださり、ありがとうございます。この機会を通じてロータリー米山記念奨学生として今まで得たことや目標について話させてください。

1. 自己紹介

名前:ヴィ ティ ゴック チン

出身:ベトナム

2019年4月～2023年3月まで:静岡県立大学 国際関係学部

2022年4月～2023年3月:ロータリー米山記念奨学金

世話クラブ:三島ロータリークラブ

現在:早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 国際関係

2023年4月～9月:クラブ支援ロータリー米山記念奨学金

2. ロータリー米山記念奨学金のイメージ

ロータリー米山奨学金を申請する前に奨学金のイメージ、魅力についての自分の考えについて話したいです。

まず、学生にとって毎月受けられる奨学金(学部生:10万円、大学院生:14万)は大金です。奨学金を受けることができれば学費や生活費に充てることができ、心配することがなく学業に専念することができます。また、奨学金を受けただけでなく他の奨学金と違って日本の文化や習慣、特にロータリー精神を学ぶことができ、自分にとって非常に魅力的なところです。日本に留学する目的は、勉強はもちろん、日本の文化、マナーについても学びたいです。しかし、日常生活でなかなか日本文化を体験できませんでした。そのため、もしロータリー米山記念奨学生となったらロータリアンの方々と交流や地区・世話クラブの活動に参加することを通じて日本の社会、文化を学び、有意義な留学生活を送ることができるのではないかと考えました。

奨学金を申請するために研究計画書、小論文(テーマ:「なぜ、留学先に日本を選んだのか。日本留学を終えた後の将来計画」)が含まれる必要書類を2021年10月に大学に提出しました。大学からの推薦を受け、地区の面接試験を受けました。面接試験の時に緊張してしまいましたが、自分の留学目的、計画、考えなどをはっきりと伝えました。そして、2021年12月28日に合格内定者に選ばれたというメールをもらいました。結果を知った後、非常に嬉しくて涙も出ました。

3. 今まで奨学生として得たこと

・経済的な支援

まず、奨学金のご支援のおかげで、学業に専念することができました。経済的な面で心配することなく安心して自分の目標に向かって進むことができました。

・ロータリアンとの交流

米山梅吉記念館で行われたオリエンテーションで米山梅吉氏の人生・精神や奨学生としての義務を学びました。

奨学生となってこれからどのようにロータリアンと交流するか心配していました。しかし、カウンセラー制度によって解消されました。

私のカウンセラーである堀内さんと同じ大学の奨学生であるリーさんもオリエンテーションに参加しました。リーさんのカウンセラーが来なかったため、心配していましたが、堀内さんは私とリーさんを東南アジアのレストランに連れてくれました。私たちはベトナム料理を楽しみながら、日本や中国、ベトナムについても話ししました。この経験により、私とカウンセラーの距離が近づき、リーさんも喜んでいました。リーさんから「チンさんは良かったですね」と言ってくれました。私も嬉しかったです。奨学金を受ける期間中、優しいカウンセラーのサポートを受けることができて、安心感を持ちました。

そして、堀内さんの指導を受けながら、毎月三島ロータリークラブのロータリアンの方々とよく交流することができました。

最初は知識や経験が豊富なロータリアンの方々と交流する時「何を話せばいいか」「偉い方々と交流できるだろうか」悩みましたが、実際に例会に参加して皆が親切で優しく私の話を聞いてくれる姿を見るたびに嬉しく感じました。また、学生である私は自分のことをアピールするのではなく、ロータリアンの話を真剣に聞くべきだと考えるようになりました。ロータリアンの話やスピーチからは皆さんの経験や考えを学ぶことができました。交流を通じて、ロータリアンの奉仕の精神や日本の文化・習慣を学ぶことができました。また、コミュニケーション力も身につけることができました。自分の成長にはこのような経験や気づきが重要だと思います。



これは去年のクリスマス例会での写真です。ロータリアンの方々と楽しい時間を過ごしました。その日に堀内さんと私はベトナムの伝統的な服であるアオザイを着ました。堀内さんのアオザイは20年ほど前にベトナムで買ったもので、私ののは高校時代からのものです。また、ロータリアンの皆さんは演奏や交流を楽しむためにロータリアンの方がディズニーキャラクター衣装をしました。笑顔があふれ、距離が縮まったような感じがしました。皆さんとの交流を通じて、たくさんの思い出を作ることができ、母国の伝統的な服を紹介する機会もあり、本当に良かったと思います。

例会のみならず、家族旅行にも参加しました。諏訪大社や花見など、様々な場所を訪れることができました。旅行を通じて、日本の風景を見ただけでなく、歴史を学び、文化に触れることができたのは貴重な経験でした。



これは諏訪大社に行った時に、ロータリアンとロータリアンの家族の方々と一緒に撮った写真です。非常に楽しかったです。

一番後ろは堀内麻友子さん(堀内さんの娘さん)です。お姉さんは例会の後に何回も私をカフェに連れて、私の悩みを聞いてアドバイスしてくれました。私の日本語能力は低かったのですが、お姉さんは常に正しい言葉の使い方を教えてくれました。そのおかげで私は会話に自信を持つようになりました。また、旅行や家族例会に参加するたびに私のために予定を変更して一緒に参加してくれました。麻友子さんはマリエの先生なので忙しいですが、いろいろとサポートしてくれて感謝しています。今年の10月にはお姉さんが主催するマリエ発表会にも誘われました。私はマリエを実際に見たことがないので、その時に楽しんで参加しようと思っています。



これらの写真は今年の花見例会の写真です。またたくさん写真があります。私は三島ロータリークラブのおかげで、日本の文化に触れる機会をたくさん与えてもらいました。今週の家族例会にも参加させてもらえることになり、とても嬉しいです。この機会を通じて、また素敵な思い出を作りたいと思います。これまで、日本文化やロータリー精神について学ぶ機会をたくさんいただき、本当に感謝しています。この期間が私の人生で忘れられない時間です。

○近況報告

毎回の例会に参加する時自分の学習や生活について近況報告しています。人前で話すのが苦手でしたが、毎回例会に参加することで少しずつ慣れてきました。また、ロータリアンから「頑張ってね」「チンさんならできる」といった励まし言葉をいただき、自信が湧いてきました。頑張っている自分を認めてもらえることは、とても嬉しかったです。将来ロータリアンのように社会に貢献できる人になりたいという意欲が溢れてきました。

○架け橋

母国と日本との架け橋となることは奨学生としての義務の一つです。将来、私は日本とベトナムの架け橋となることを目指して奨学生としての義務を果たしたいです。

世界のどこかでまだ戦争が続いており、平和な時代を願っています。私たちは平和を守るために他国と友好関係を築くことが重要です。国と国の友好関係、平和な世界は一人一人の繋がりによって築かれています。この考えはロータリー精神から学んだものです。

過去の日本とベトナムの戦争についてはまだ教科書に載っており、これを繰り返さないためにも歴史から学ぶ必要があります。両国の関係は長年の努力により改善され、現在ベトナムでは日本を信頼する国となりました。ベトナムに進出している企業も増えている(約1990社)。将来的には、専門的な知識や日本の文化、習慣、マナーなどをベトナム人に伝えることで、両国の関係の発展に貢献したいと考えています。

4. 目標

・日本へ留学する目的:日本で学んだことを活かして将来自分の生まれた地域の発展に貢献したいです。

高校の頃、日本の地理の授業を受けたことで、日本の経済に興味を持つようになりました。なぜ天然資源が少なく、自然災害が多いにも関わらず、日本が戦後急速に経済復興を遂げ、世界経済大国となったのか、疑問を持っていました。その答えとして「人、教育、経済政策」が重要な要素であることを知りました。日本は非西洋から先進国となった最初の国であり、開発途上国の発展のベストモデルの一つです。私は欧米とは異なる日本の近代化の開発経験について学びたいと考え、日本への留学を決意しました。

・日本での生活から:

私は日本に住んで、ベトナムと日本の違いに気づき、ベトナムも日本のように発展したいと思っています。最近、ベトナムに進出する日本企業が増えつつあり、日本政府もベトナムの経済発展を支援しているというニュースをよく目にしました。政治、経済、文化、人的交流といった様々な分野で両国の関係が密接になっています。私は国と国の関係、国際協力に興味を持ち、静岡県立大学の国際関係学部に入学しました。

・大学院に進学し、教育開発を選んだ理由

大学で経済開発を研究したかったが、授業で教育が地域の発展に重要な役割を果たしていることを理解しました。地域の発展には政府や外部の支援だけでなく、地域の人々の協力も不可欠です。そのためには質の高い教育が必要です。ただし、ベトナムをはじめ途上国ではまだ教育に課題が存在している。この問題を解決し、母国の教育の発展に貢献したいと思い、教育開発について勉強したいと考えようになりました。

・自分の経験:

自分自身の経験でも、教育の重要性を実感できました。

生まれたところのランソン省は、ランソン省は山や丘が8割を占め、人口の8割以上が少数民族です。少数民族は山間地に住んで、農業をやっています。



(都市と農村の写真)

・私は子供から教育の重要性理解できました。努力して勉強しています。

・中学校まで農村の学校に通っていました。

・古い教室で勉強しました。

・ほとんどのクラスメートは少数民族です。

・全員が出席する日が少なかったです。

地域の教育の現状：農村・山間地の家族の多くは子供たちの学習に関心を持っていません。子供は学校に行く意味を明確に理解しておらず、また家族の手助けをするために学校を辞めさせる家族も多いです。自分と家族を養うために多くの子供は頻繁に欠席しました。学校を卒業して、仕事が見つからなければ、いつ学校を辞めてもいいと考える親が多いです。

中学校の後、ランソン市にある高校に入学しました。入学試験が難しい学校なので同じ年に入学した学生の中で農村出身の学生は5～6人しかいませんでした。ここで、都市に住んでいるクラスメートの勉強方法や学習環境が異なることを知りました。都市部と農村部の教育格差を実感しました。

教育の重要性+自分の経験 →これらの経験から、ベトナムの農村部の教育の発展に貢献できる人になりたいと考え、大学院に進学しました。

自分の生まれた地域の教育の発展に貢献したいという考えをカウンセラーや世話クラブに伝え、皆から応援され、今年の9月までクラブ支援奨学生として奨学金を受け続けることができました。

5. 感謝の言葉：

ロータリアンのご支援のおかげで、私は留学生生活を充実させることができました。自分の目標に向かって進む自信を持っていますし、日々感謝の気持ちで過ごしています。この留学は私にとって正しい決断であり、奨学生として様々な経験を積むことができました。心から感謝しています。

奨学生期間が来月までですが、その後も繋がりを続けて活躍したいと思っています。成果を上げてみなさんに報告できるように、日々勉強に励んでいます。

本日の例会を通じて感謝の気持ちを伝えることができ本当に良かったです。ありがとうございました。



おめでとう

会員誕生日 増田君

入会記念日 遠藤(真)君、秋元君



スマイルボックス

◆堀内君(三島RC)、三島RCカウンセラーの堀内満喜子です。今日は米山奨学生のヴィ ティ ゴック チンさんを卓話にお招き下さりありがとうございます。皆様の温かいお気持ちに感謝いたします。今日は、どうぞよろしく願いいたします。



◆平出君、慶応義塾高校が甲子園大会で優勝しました。試合の中で、外野に上がった平凡なフライを仙台育英のセンターとレフトがぶつかって落球したシーンがありました。あれは慶応の応援がすごすぎて、自分の声が相手に伝わらないんです。昔、早慶戦で経験があるので、仙台育英には気の毒でした。慶応が勝った瞬間は感激しました。

◆栗原(康)君、8/12静岡あさひテレビのまるごとワイド土曜日版で20分を超える放送がありました。工場はお休みでしたが、広小路のお店に来てくれるお客様も増えました。ありがとうございました。再放送が9/3日曜日のまるごとワイドでも10時から10時55分の間であるようです。

◆木村君、甲子園で母校が107年ぶりに優勝しました。久しぶりに血が騒ぎました。

◆Eテーブル、8/22(火)におんふらんすにてEテーブル会を開催しました。密造酒の話など、昔話もあり大変楽しく過ごすことができました。少額ですがスマイルします。

◆野田君、本日所用にて早退致します。

(週報担当：町野 暉)